

2016 年度 東北大学 新任教員プログラム Tohoku U. NFP フルコース (新任教員対象)

1. 目的

東北大学 新任教員プログラム(Tohoku University New Faculty Program, Tohoku U. NFP)は、全国の大学に努める新任教員を対象としています。大学にはじめて勤めた平成23年4月以降採用の教員、概ね40歳以下を対象として、大学教員に求められる能力を実践的に学ぶ機会の提供を目的としています。

大学教員の職務は教育、研究、管理、社会サービスなど多岐に渡っており、新任の大学教員は戸惑いや大きなストレスを感じます。大学教員に求められる能力や知識を実践的に学びつつ、同僚である他のプログラム参加者や、経験豊かな先達教員との対話を通じて、大学教員として、また、自身が所属する大学の一員として働くことの意味を模索する機会を提供します。また、プログラムでの経験を内省することで、自己省察力を身につけます。

本プログラムは、大学教員を目指す院生を対象とした東北大学 大学教員準備プログラム(Tohoku U. PFFP)と合同で実施します。

2. 達成目標

参加者は次のことが出来るようになることを目指します。

- 比較の視点を持ち多様なアプローチで高等教育全体を効果的に省察できるようになること
- 大学教員の役割、仕事を理解し、展望を持ってキャリア構築を設計できること
- 教育活動に関する基礎的知識を身につけ、自分なりの言葉で教育観を語れるようになること
- 異分野の研究や教育文化を知ること
- 異分野、新任教員、シニア教員など多様な教員との協働を経験すること

3. 内容

目標を達成するために、参加者は次の活動に取り組みます。

- 仕事を理解する(講義)
- 基礎知識を得る(ワークショップ)
- 自己省察力を養う(リフレクティブ・ジャーナル、課題論文、プレゼンテーション)
- 比較の目を育てる(他の参加者との交流、他大学調査訪問)
- 実践力を磨く(マイクロティーチング、模擬授業)
- 同僚とつながる(他の参加者との交流、プログラム OB/OG との交流)
- 先達から学ぶ(授業参観、先達コンサルテーション)

具体的な活動は以下の通りです。

(A) NFP ワークショップ(オリエンテーション)

NFP へようこそ

概要

2016 年度東北大学 新任教員プログラム(Tohoku U. NFP)の参加者の顔合わせです。自己紹介、プログラムの説明、大学教員の仕事と専門性(講義)、リフレクションについて(講義)、比較の目を育てる(ワークショップ)、事務手続き等を行います。参加者はこれらの活動

を通じて、お互いのことを知り、これからの活動にむけての準備を始めます。

内容

- NFP の目的に関する講義
- 大学教員の役割と大学教育に関するブレインストーミング
- 比較の視点を育てるワークショップ
- 課題とリフレクティブ・ジャーナルの説明

日程 2016 年 7 月 16 日(土) 10:00~17:30

(B) 基礎知識を得る

大学の授業を設計する:授業デザインとシラバス作成

概要

あなたは何を基準にして、どのような手順で授業を設計していますか？本ワークショップでは大学の授業における目標、活動、評価や授業設計について、シラバス作成を通して考えます。参加者は事前にシラバスを作成し、提出します。

内容

- 「授業の全体を構想しシラバスに表現する」ワークショップ

日程 2016 年 8 月 25 日(木) 13:00~17:00

* 受講が難しい場合、ISTU を通じて配信するので、動画を視聴してください。

授業づくり:準備と運営

概要

学習者が集中し、十分に理解できるような授業をつくるためには何に留意し、どのような準備をして、いかに授業を展開すると良いのでしょうか。一回の講義形式の授業を念頭において学びます。

内容

- 理解の認知プロセス
- 知識の活性化
- メンタルモデルの構築
- 気持ちのコントロール

日程 2016 年 9 月 14 日(水) 13:00~15:00

* 受講が難しい場合、ISTU を通じて配信するので、動画を視聴してください。

本当のかしこさとは何か—感情知性と大学教育—

概要

大学教育では専門知識を身につけるために、「理論的」であることが重視され、「感情」は排除されてきましたが、豊かな感情を育てることは柔軟な思考力を育てるうえで重要な課題であることが明らかになってきました。感情知性と大学教育について学びます。

内容

- 知能指数と感情知性(予定)

日程 2016 年 10 月のいずれか一日、午後

* 受講が難しい場合、ISTU を通じて配信するので、動画を視聴してください。

(C) 実践力を磨く

自分の授業を見つめる(マイクロティーチング)

概要

実践力を身につけるには、何事にも経験とそのふり返りが必要です。参加者は先に実施されたワークショップ「大学の授業を設計する：授業デザインとシラバス作成」で作成したシラバスから授業1回分を選び、90分の授業計画をたて、その内の10分程度を実際に行います（これをマイクロティーチングといいます）。他の参加者からのコメントをもとに、自分の授業計画をふり返ります。

内容

- マイクロティーチングの実践と参加者同士のディスカッション
- セルフリフレクションの実践

日程 2016年11月中旬 予定

(D) 先達から学ぶ

授業参観：授業を見る聞く学ぶ

概要

教育経験の豊富な教員の授業を参観し、自分の教育活動を考えるヒントを得ます。授業終了後の検討会では、授業内の教育活動や授業前の準備などについて授業実践者より学びます。

内容

- 実授業の参観(3件以上)
- 授業者とのディスカッション、質疑応答

日程 2016年7月～2017年1月

(E) 基礎知識を得る

コーチング技能を活用した院生指導

概要

大学教員の仕事として、研究や授業のほかにも、後進を育てる研究指導も重要です。本ワークショップでは、コーチング技術の開発に取り組んできた医工学研究科の出江紳一先生を迎え、学生にヒントや挑戦を与えたり、動機づけ、励まし、対話を行う活動を実践的に学びます。

内容

- コーチング技術に関する講義
- ワークショップ

日程 2016年12月9日(金)13:00～16:10

* 受講が難しい場合、ISTUを通じて配信するので、動画を視聴してください。

(F) 実践力を磨く

自分の授業を見つめる(模擬授業)

概要

実践力を磨くためには、自身の経験を繰り返しふり返る習慣を身につけることが大切です。マイクロティーチングでの経験をもとに、15分程度(予定)の模擬授業を実践し、他の参加者や先達教員からコメントをもらいます。マイクロティーチング同様、授業の様子はビデオで撮

影し、後日、自分の授業を見直す際に利用します。

内容

- 模擬授業の実践
- フィードバックセッション
- セルフリフレクションの実践

日程 2017年2月上旬予定

(G) 比較の目を育てる

国内・海外の他大学訪問調査(オプション)

概要

自身の置かれている環境や、その特徴を理解するためには、多様な具体例を知り、それと相対化しながら理解を深めることが重要です。本プログラムでは、国内外の他大学の授業参観、教員とのディスカッションにより、多様な大学の在り方などについて理解を深める機会を提供しています。参加者は希望調査のうえ、選抜により決定します。

内容

- 授業参観
- ディスカッション
- フィールドワーク

日程 国内:2016年10月中 2泊3日

海外:2017年2月下旬~3月上旬 一週間程度

(H) 先達から学ぶ

先達教員による個人コンサルテーション

概要

大学教員になると、なかなか直属の上司に相談できなかつたり、他分野の先輩教員と交流する機会が限られたりすることが多くあります。先達コンサルテーションでは、プログラムへの参加を通して生まれた疑問や、自らの課題について、先達教員との個人面談のかたちで議論することができます。また、グループディスカッションを通して、参加者全員と共有したいポイントなどについて議論する時間ももちます。

内容

- 先達教員との個人面談
- グループディスカッション

日程 2017年3月上旬予定

(I) 自己省察力を養う

リフレクティブ・ジャーナルの執筆

概要

プログラムで経験したことを通して、大学教員という仕事や大学教育に関する考え方がどのように発展していったのかをリフレクティブ・ジャーナルに記録し、自分なりの教育観を構築します。

内容

- 各セミナー、ワークショップ受講後にリフレクティブに実践をふり返って記録する

日程 プログラム実施期間中随時

成果報告会

概要

2016年度 Tohoku U. NFP の参加報告を行います。特に、プログラムを通じて考えたことなどを共有し、大学教員職や教育に関する理解を更に深めることを目的としています。最後に、東北大学 高度教養教育・学生支援機構より修了証の授与を行います。

内容

- プログラムでの経験に関する共有、ディスカッション
- 先達教員からのコメント
- 修了証授与
- 懇親会

日程 2017年3月中旬予定

4. 成果報告

本プログラムでは、課題レポートの提出と参加報告会での発表により、プログラムの成果報告を求めます。

【課題レポート】

「自分の授業や学生指導を質のよいものにするために、何が課題だと思えますか。また、教員個人の立場から、自大学の教育はどうあるべきだと思えますか。」

研修で取り上げた内容や作成したリフレクティブ・ジャーナルを適宜参照しながら 4,000 字程度でまとめてください。

提出期限：2017年3月上旬予定